

## 作文を書くころ 4 生活文―(文の組み立てと書き方)

(保護者と児童・生徒へ)

ニュージャージー補習授業校 (2012年8月18日)

作文を書くことは、相手に何か(できごとや自分の思いなど)を、書いて伝える(こと)です。

伝えるためには、**必要な事柄**をはっきりさせなければなりません。(新聞記事と同じです。)

学校では生活文を書く機会が多いです。生活文とは、行事作文(運動会・入学式など)、生活行事作文(お正月・七夕・クリスマスなど)、生活作文(きのうあつたできごと・宿題など)で、生活文といっています。

【何を書くかを決める―5W1H】

①いつ ②どこで ③だれが ④何を ⑤どういつわけで ⑥どうしたか

【例】きのう 台所で ぼくが たこやきを おなががすいていたので 全部食べてしまった。

⑥そして、どうなったか↓これを書くとおもしろくなります。これが**作文**です。

【文構成】(文の組み立て) 基本中の基本です。

	した(こと)	思った(こと)
はじめ	たこやきを見つけた	ひとへらしいいな
なか	ぼくはく食べた	おい。
おわり	全部食べてしまった	食欲にはまけた。逃げるが勝ち

【1つ書きましよう】①【1つ書く(こと)をしぼり、その他は切り捨てましよう。】

①した(こと)をよく思い出す。(会話や行動を思い出し、テテで中継のように短い文でつなげると迫力が出来ます。)

②その時の気持ちもよく思い出しましょう。(「おいしい」と書かずに、**行動を書く**のです。)

③**書く中心を決めましよう。**特に「はじめ」「なか」「おわり」の「なか」をくわしく書くのです。

長々と書かずに、しぼって書きましよう。例えば、「遠足」であれば、「お弁当」、「バスから見えた〇〇」、「前の夜興奮して眠れなかったこと」「遠足で会った人」などのように、書く(こと)をしぼりましよう。

【1つ書きましよう】②【**心の変化**を書きましよう。】

事件やできごとがありました。↑

その結果、今はどう思いますか。**気持ちや考えがどう変化しましたか?**

【1つ書きましよう】③【**会話**を入れましよう。】

会話を二〜五回ほど書くと、その場の様子がよくわかります。会話を書き込んでみましよう。

(会話の時は、「」で書きます。「」は、原稿用紙では、新しい次の行に行き、上から書きます。)

【1つ書きましよう】④【**せばめた具体的な題**をつけましよう。】

題を工夫しましよう。例えば、「運動会の徒競走」で転んでしまったことを書くときは、大ざっぱに「運動会」としてないで、「転んでできた ひぎのキズ」など、読む人に分かりやすい、具体的な題にするよいのです。

【1つ書きましよう】⑤【**事実をもとにして、自分の考え**を書きましよう。】

事実を書いてから、自分の意見を書きましよう。自分の意見を書いてから、事実を書いてもいいです。